

【旧約聖書日課】ミカ書 5章1～3節

1 エフラタのベツレヘムよ

お前はユダの氏族の中でいと小さき者。

お前の中から、わたしのために

イスラエルを治める者が出る。

彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる。

2 まことに、主は彼らを捨ておかれる

産婦が子を産むときまで。

そのとき、彼の兄弟の残りの者は

イスラエルの子らのもとに帰って来る。

3 彼は立って、群れを養う

主の力、神である主の御名の威厳をもって。

彼らは安らかに住まう。

今や、彼は大いなる者となり

その力が地の果てに及ぶからだ。

【使徒書日課】テトスへの手紙 2章11～15節

11実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました。12その恵みは、わたしたちが不信心と現世的な欲望を捨てて、この世で、思慮深く、正しく、信心深く生活するように教え、13また、祝福に満ちた希望、すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望むように教えています。14キリストがわたしたちのために御自身を献げられたのは、わたしたちをあらゆる不法から贖い出し、良い行いに熱心な民を御自分のものとして清めるためだったのです。15十分な権威をもってこれらのことを語り、勧め、戒めなさい。だれにも侮られてはなりません。

【福音書日課】ルカによる福音書 2章1～20節

1そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。2これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。3人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。4ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。5身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。6ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、7初めての子を産み、布にくるんで

飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

8その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。  
9すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。  
10天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。  
11今日グビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。  
12あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」  
13すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

14「いと高きところには栄光、神にあれ、  
地には平和、御心に適う人にあれ。」

15天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。  
16そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。  
17その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。  
18聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。  
19しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。  
20羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

## 《クリスマス天使》は三度！

クリスマスおめでとうございます。御子のご降誕を祝う礼拝へと招かれました。このよき日を共に迎えることができました。

わたしたち皆がこの日を迎えることができるようにと、《クリスマス天使》たちは、どれほど忙しくしてきたことでしょうか。洗礼者ヨハネの父となったザカリアの前に現れ、御子イエスの母となったマリアの前に現れた天使は、今日は、羊飼いたちの前に現れたのです。しかも、もはや天使ガブリエル一人ではなく、天の大軍となって、現れました。

そうです。《クリスマス天使》たちには、このよき知らせを伝えなければならない人々が、数限りなくあるのです。大軍となって世界中に散って行かなければ伝えきれないほど多くの人々に、《クリスマス天使》たちは、このよき知らせを伝えてきたのです。そうです。今も伝え続けています。

天使たちが伝えることは、ただ一つです。「あなたは、乳飲み子を見つける」。

生まれたばかりの乳飲み子。母に守られ、父に守られていなければ、一日たりとも命をつなぐことのできない、小さな乳飲み子。「あなたは、その子を見る」。そう告げられてきて、わたしたちは皆、ここに辿り着いたのです。

## 「乳飲み子を探せ！」

クリスマスを迎えた昨夕、「聖夜礼拝」に集められてきた皆さんと共に、降誕物語を聞き直しました。子どもたちとは、一足早く先週の日曜日の午後、「降誕劇礼拝（ページェント礼拝）」で、降誕物語を見える形で聞き直しました。降誕物語を聞き直す礼拝の真ん中に置かれていたのは、まぎれもなく「乳飲み子」です。「乳飲み子」としてお生まれになられた「御子」です。

「聖夜礼拝」では、その「乳飲み子」は、アドヴェント・キャンドルに加えられた五本目、「降誕のロウソク」によって示されていました。「降誕劇礼拝」では、もっとはっきりと、飼い葉桶に寝かせられた「赤ちゃん人形」によって示されていました。

今日、降誕祭礼拝を祝う教会で、わたしたちは、昨夜に続いて「降誕のロウソク」を灯しています。「乳飲み子」としてお生まれになられた「御子」が、ここにいらっしやることを憶えるためです。でも、もっとはっきりと、飼い葉桶に寝かせられた「赤ちゃん人形」を、この礼拝堂の真ん中に置いてもよいのです。

クリスマスを迎える礼拝堂の真ん中に「クリッペ」（降誕物語の人形セット）を飾る教会があります。ほとんど実物大と思える大きな「クリッペ」を置く教会もあります。クリスマスを迎える前、待降節のときから少しずつ飾り始めて、クリスマスを迎えた夕べになって初めて、その真ん中に置かれた飼い葉桶に、「赤ちゃん人形」を寝かせるのです。

古い時代のヨーロッパのある修道会では、修道女となろうとする女性は、修道院に入るに際して、一つの蠟人形を準備したそうです。それは「乳飲み子のキリスト」の人形なのです。修道女たちは、クリスマスを迎えると、その「乳飲み子キリスト」の人形を片時も離さずに、本当の赤ん坊のようにして抱き、頬ずりし、世話をして過ごしました。生涯結婚することのない、つまり子を産むことのない修道女たちは、そのようにして、自分の生活の中に乳飲み子がいるとはどういうことなのかを学ぼうとしたのです。

クリスマスの天使たちは、わたしたちに告げています、「あなたがたは、乳飲み子を見るようになる」と。今まで見ていなかった者も、子どもを産み育てたことがない者も、皆、「乳飲み子を見るようになる」。

もしも、クリスマスを祝う教会で、「乳飲み子」が見当たらないならば、わたしたちは、大急ぎで探し当てなければいけないでしょう。「乳飲み子」抜きでクリスマスなど、あり得ないからです。「おとなだけのクリスマス」など、クリスマスではありません。「乳飲み子」が必要です。大人の世話がなくてはひと時も生きられない者の存在が、クリスマスには必要です。その子の存在が真ん中にあるときこそ、わたしたちは、クリスマスを祝っている。

## 《飼い葉桶》はここに！

クリスマスを祝う皆さん。わたしたちは、クリスマスの「乳飲み子」を、わたしたちの胸に、しっかりと「乳飲み子」を抱いているのでしょうか。どこかに追いやってしまったり、放り出してしまっていないのでしょうか。

この「乳飲み子」を、わたしたちがしっかり見守り続けるためには、「飼い葉桶」が必要です。マリアとヨセフが、初めての子を産んだ後、布にくるんで飼い葉桶に寝かせたように、わたしたちも、「乳飲み子」を寝かせる「飼い葉桶」が必要です。なぜなら、この「乳飲み子」には、居場所がないのですから。

「乳飲み子」には、居場所がないのです。「宿屋には…泊まる場所がなかった」のです。居場所のない「乳飲み子」を、マリアとヨセフは、飼い葉桶に寝かせました。どこにも居場所がないので、飼い葉桶に寝かせました。「飼い葉桶」は、「どこにもない居場所」なのです。

「どこにもない居場所」が必要です。世の中にはない、どこにもない、唯一無二の居場所、「飼い葉桶」。

いったい誰が、そこに「乳飲み子」を寝かせようと思ったのでしょうか。マリアか、ヨセフか。いいえ、「乳飲み子」自身が、そこに寝かせられることを選んだのかもしれませんが。そこに寝かせられた「乳飲み子」を見つめる者たちの間で、世の常識ではない、どこにもない、唯一無二のことが始まるようにと。

確かに、それは始められました。「飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子」を真ん中に置いて祝うという、どこにもない、唯一無二のことが、始められました。始められただけでなく、二千年間、受け継がれてきました。

御子である「乳飲み子」が教会に「飼い葉桶」を据えてくださったのです。「飼い葉桶」を必要とするすべての「乳飲み子」を迎えるために。そこに寝かせ、わたしたちすべての者の目を注ぐために。

「飼い葉桶」を据えましょう。わたしたちの交わりの真ん中に、「飼い葉桶」を据えましょう。それは、わたしたちがひと時も目を離すことのできない「乳飲み子」を迎えるために必要なものです。「乳飲み子」を迎えるための、大切な備えです。マリアとヨセフがそうしたように、自分たちで見つけ出し、「乳飲み子」を迎えられるように整えるのです。そうしなければ、「乳飲み子」は、命を失ってしまうからです。わたしたちの間に生まれ出てくる「乳飲み子」が命を失うことがないように、わたしたちは、そうするのです。

わたしたちも皆、かつて「乳飲み子」だったのです。今、「乳飲み子」を迎えるようにと、天使に告げられて、ここに招かれてきました。クリスマスの祝いへと招かれてきました。